

IBM Power Virtual Server 検証環境を使用した WebReport 2.0 Smart 製品の導入および稼働検証

概要

IBM Power Virtual Server 環境で、導入されている WebSphere Application Server(以降 WAS)に対し、WebReport 2.0 Smart の導入および稼働検証を実施しました。

背景・課題

IBM Power Virtual Server 環境において、1 次言語を 2962(日本語)で構成し WAS が導入された環境で、WebReport 2.0 Smart が正常に導入および動作するか？ パフォーマンスに問題ないか？ などを検証する必要があり実施しました。

製品概要

WebReport 2.0 Smart は、IBM i、Windows Server、Linux サーバー 上で動作し、リアルタイムにデータの照会・更新が可能な誰でも簡単に使いこなせるレポートングツールです。Web ブラウザ上からデータ抽出、集計、ダッシュボード表示、エクスポートなどの操作が可能で、使い慣れた EXCEL への直接データ連携も可能です。また、スマートフォンからもデータ照会、グラフ表示、ダッシュボード表示が可能です。

- データベースから**リアルタイム**で検索・照会
- **オールインワン**で、高いコストパフォーマンス
 - ① 表形式のデータ照会表示
 - ② ダッシュボード(グラフ)
- 欲しいレポートを簡単にメニュー化することで、
利用者は**ワンクリック**でデータを取得
- WebブラウザからExcelにエクスポート
- Excelから直接データを取得
- 照会・ダウンロードだけでなく
更新・アップロード機能も提供

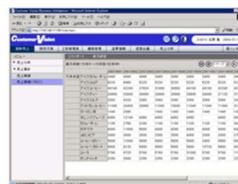
IBM Power Systems Virtual Server(IBM i)



WebReport 2.0
Smart



Webでレポート



Excelでレポート



構成内容

IBM Power Virtual Server

使用した IBM Power Virtual Server の仕様は以下の通り

モデル:S922、CPU:0.25Core(最小構成)、MEM:8GB、OS:IBM i V7R4、1 次言語:2962

(日本語環境)、QCCSID:5035、WAS V8.5.5.15 Express

検証内容

□WebReport 2.0 Smart の導入および稼働検証

VPN を適用したプライベート接続で IBM Power Virtual Server に WebReport 2.0 Smart の

導入および稼働検証を実施

① WebReport 2.0 Smart の Trial 版をダウンロード(導入マニュアル同梱)

<https://www.jbat.co.jp/download/webreport/webreportsmart.html#/>

※ WebReport 2.0 Smart の評価版はJBアドバンスド・テクノロジー株式会社の「WebReport2.0 Smart 評価版」ページからダウンロードいただけます。

② IBM i に WebReport 2.0 Smart の導入および設定(⇒WAS の管理コンソールより操作)

③ Client に WebReport 2.0 Smart の管理ツール、定義設定ツール、フォームエディタを導入

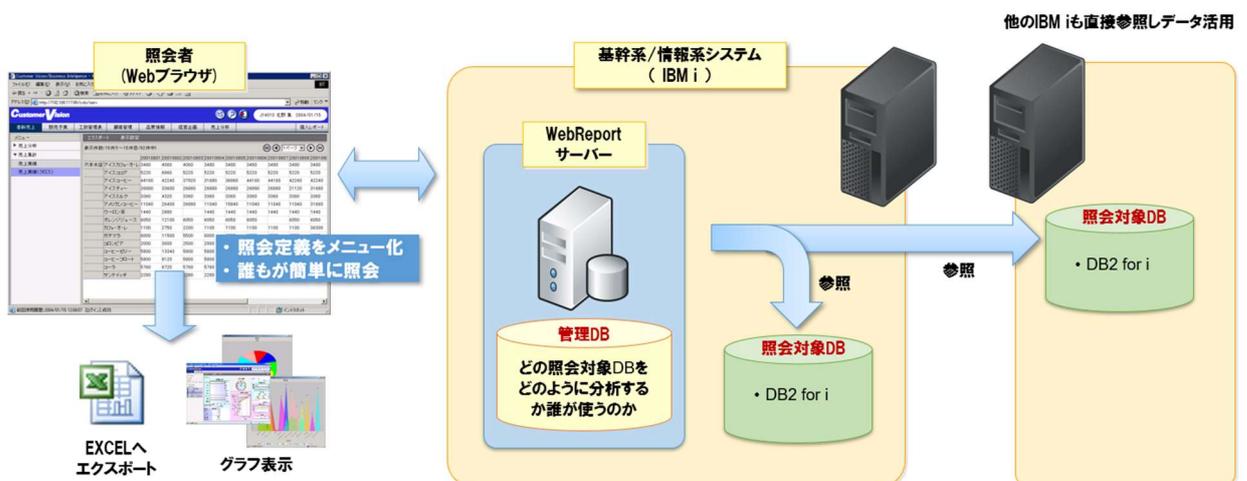
④ 管理ツールによりデータリソース設定、ユーザーの登録を実施

⑤ 定義設計ツールにより照会定義を作成し、Web ブラウザやスマートフォンにより照会実行

⑥ Excel アドイン機能により、照会定義および更新定義を作成し、照会定義・更新定義を実行

⑦ ダッシュボードエディタによりダッシュボード定義を作成し、ダッシュボード機能によるグラフ表示の確認

⑧ フォーム設計プログラムによりフォーム(レコード1件ごとにレイアウトを整えて照会結果を表示する形式)を作成し、フォーム形式によるデータの表示と更新実行



検証結果

製品	検証日	導入結果	検証結果	備考
WebReport 2.0 Smart	2024/12/11	正常終了	正常終了	WebReport 2.0 Smart の導入および設定、Web ブラウザや Excel アドイン機能、スマートフォンによる照会および更新(Excel アドインのみ)の稼働検証を実施で問題なし。パフォーマンスについてもオンプレミスと同様にストレスなく動作確認。

所感

IBM Power Virtual Server 環境とは、プライベート接続の IPsec VPN 方式 (Classic の VPN 経由) で接続しましたが、オンプレミスと同様のパフォーマンスで使用できました。

WebReport 2.0 Smart のパフォーマンス検証時、IBM i 側の CFGTCP の OPT12 の「ドメイン・ネーム・サーバー」にパブリック DNS を設定すると、WebReport 定義設計ツールや WebReport 管理ツールからのログインに非常に時間がかかる現象が発生しました。

DNS が不要ならば「ドメイン・ネーム・サーバー」の設定には*NONE を設定することを推奨いたします。

パブリックの DNS を設定する場合、設定するパブリック DNS をご検討いただき、パフォーマンスに影響がないことをご確認の上で「ドメイン・ネーム・サーバー」の設定を行ってください。

障害発生時の対応について

サポートにおいては、実環境においても同様の問題が発生するものとして対応します。

実環境での追試で再現しない障害に関しては、お客様の環境に起因する問題として、仮想環境を提供する製造元または販売元への問い合わせをお願いします。

また、仮想環境へのパッチ適用等は、お客様にて実施していただきますようお願いします。